

発売したワークジャケット（ミズノ
提供）



しゃがむといった各動作に柔軟に対応。

背中や臀部（でんぶ）周辺の生地をつっぱり感を抑え、作業の効率を高める。

ストレッチ生地には、衣料品の廃材や繊維くずなどを再生したりサイクルポリ

エステルを採用している。環境負荷の低減にも貢献する。

ミズノが現場用ワーク ジャケット・パンツ

身体動作分析、
快適性追求

ミズノは建設業や運輸業、製造業などの作業現場に向けた「ワークジャケット・ワークパンツ」を発売した。荷物の運搬や台車の操作といった身体動作をモーションキャプチャーで分析。独自の設計とストレッチ素材の採用で、肘や膝を曲げた際のつっぱり感を減らし、快適な動作を実現した。初年度は1万4000枚の販売を目指す。

縦と横の2方向に伸縮する「2wayストレッチ」生地を使用した。腕を前方に伸ばす、前かがみになる、

方向性や具体策 重点に内容充実へ

防災庁設置準備 アドバイザー会議

政府が2026年度の設置を目指す防災庁の機能や役割を議論している有識者アドバイザー会議は、6回目の会合を12日に都内で開き、政府に提出する提言の骨子案を議論した。基本理念や果たすべき役割、組織体制の概要などを盛り込む。防災庁が取り組むべき施策の方向に重点を置き、内容の充実を図る。6月をめどに提言をまとめる予定だ。

政府は25年度の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」で防災庁組織の大枠を示す方針を固めている。「防災庁設置準備アドバイザー会議」（主査・福和伸夫名古屋大学名誉教授）は、専門家からの聞き取りや意見交換の成果を骨太の方針策定に間に合うようまとめる考えだ。会

合後取材に応じた福和主査は「全体の構造が整理され熱気ある議論ができた。提出期限まで時間があるわけではないので全体的な視点で議論した」と説明した。

骨子案では報告書を4章立てとし、防災庁の▽必要性▽基本理念と果たすべき役割▽今後取り組みべき防災施策の方向性と具体的施策▽求められる体制―を示す。会合では政府から官民連携に向けた新たな取り組みとして「防災官民連携ネットワーク（仮）」の立ち上げを目指す方針が示された。防災庁設置を見据え行政と企業、NPOなどが集い、円滑な災害対応ができるような環境づくりや対話の場にしたい意向だ。

会合で赤沢亮正防災庁設置準備担当相は「発災時、的確に動くには平時から徹底的に事前防災に取り組むしかない。そのため防災庁が担うべき役割をはじめ施策や組織体制について意見いただきたい」と述べた。